

2013年7月1日

趣意書

「ウェアラブル・ヘルスケア・センサ国際シンポジウム」

開催の件

背景

(独) 科学技術振興機構 前中センシング融合プロジェクトは、高齢化社会や高ストレス社会での安心・安全を担保するため、直接人体に貼り付けて日常生活に影響を及ぼさない絆創膏型の生体モニタリングセンサの研究開発を過去5年半にわたり行ってまいりました。時を同じくして、世界では様々なウェアラブル・ヘルスケア・センサが提案され、ポケットから絆創膏さらには埋め込みへと、技術の発展とともにデバイスビジネスはもとよりそれらを用いたサービスが始まり、大きく広がろうとしています。

このような状況の中で、わが日本企業の多くは、ビジネスモデルの構築の困難さ、マーケット規模の予測の困難さ、あるいは医療用途との境界の不明瞭さ等を理由に、この新しいマーケットに入ることを躊躇し、様子見状態のように見えます。

趣旨

本国際シンポジウムは、以上のような背景のもと、特にこれから大きなマーケットに拡大することが予想されるウェアラブル・ヘルスケア・センサにターゲットを絞り、現状の世界の最先端技術と世界がはじめようとしているビジネスに関し、欧州、北米、アジアから研究者や企業家を招き、その現状及び将来動向を講演していただき、日本企業に世界の後塵を拝することなく勇気をもってこの新しいマーケットに参入する刺激となることを目標とします。

「ウェアラブル・ヘルスケア・センサ国際シンポジウム」

シンポジウム委員長

兵庫県立大学教授 前中 一介
東北大学 江刺 正喜

開催日：2013年10月25日(金)

開催場所：パシフィコ横浜会議場会議センター315

主催：兵庫県立大学・東北大学マイクロシステム融合研究開発センター共催